

聖書箇所 : ヨハネ 17:6-19 イエスの弟子たちのための祈り

1. **将来性にかける** : イエスは、弟子たちの今ではなく、これから成っていく姿を信じて励まし続けた。

- ・ 現状 : いつ弟子たちが、イエスの教えを守ったのか(6) ? どこまでイエスのことを知って(7)、また、信じていたのか(8) ? いつ彼らがイエスの栄光をあらわしたのか (「わたしの栄光です」 10 節) ? これから、全員がイエスを裏切り、逃げていくのではないか ? どうしてイエスは、こんな言い方をされたのか ?
- ・ イエスには、弟子たちの知らない驚くべき計画があり、また、それを遂行させるために、弟子たちには想像もできない潜在能力 (賜物) と助け (力) を用意しておられた。だから、イエスは、弟子たちの将来 (神の用意されているこれから) を信じて期待しておられた。→ これは、私たちにも当てはまる。

1 ヨハネ 3:9 神から生まれた人は皆、罪を犯しません。神の種がこの人の内にいつもあるからです。この人は神から生まれたので、罪を犯すことができません。(新共同訳) [参考] 神の家族の一員として新しく生まれた人には、神のいのちが宿っているので、もはや罪を犯す習慣はありません。(LB)

- ・ 「生まれた」(ゲゲンネイタイ) は、完了の受け身の命令形であるが、この完了形は、一回だけの誕生ではなく、それが継続し続ける状態を意味している (ウエストコット)。また、この動詞が、神によって生まれた全ての者の内に宿る「神の種 (命)」に繋がる影響をあらわしているが故に、ヨハネは、罪を犯し続けることはできないと躊躇することなく述べたのだ (ジョン・ストット)。
- ・ すなわち、現在の弟子たちは弱く、失敗を繰り返しているが、彼らの心に撒かれた神の命である種は、時とともに必ず成長していくプロセスにあり、必ず成長していく。今は、「種」であって、実ではないことを忘れない。
- ・ 神は、その成長のために、持てるありとあらゆる資源を投じて、弟子たちの成長を導いていかれるのだ。

ヘブル 12:1 このように、数えきれないほどの多くの証人たちが、競技場の観覧席で私たちを見つめているのです。だから、うしろへ引き戻そうとする力や、まとわりつく罪をふり捨てて、神の用意された競走を忍耐をもって走り抜こうではありませんか。

2. **成功への 100%のコミット** : 弟子たちの成功に全てを捧げた

- ・ 「この身をささげます」(19) : 「彼らが真理を知る、きよい者として成長できるように、この身をささげます」とあるが、これまでの三年半の人生もそうであったように、これから十字架において、弟子たちばかりでなく、人類を罪の束縛から解放し、復活し、人々に天よりの力を送るために全てを捧げ尽くすという。これこそヨハネが、彼の人生を通じて、受け取ったメッセージである。「主に愛された弟子」。
- ・ この神の本気度 (コミットメント) について、パウロは論理的にこう説明する。

ローマ 8:32 わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。

- ・ 完全できよい神のひとり子を私たち人類のために喜んで提供されたのであれば、それ以外のどんなものでも惜しみなくくださるのは当たり前である。
- ・ イエスは、このヨハネ福音書 17 章で、この世に残して行く弟子たちの安全のために祈っている。その内容は、神が共にいてくださり、守られること。「わたしと父が一つであるように、彼らも一つとならせてください」(11)。「彼らの心がわたしと同じ喜びでいっぱいになるように」(12)。この神の臨在が、不安に怯える私たちにどれほ

どの慰めを与えることか？

- ・ 弟子になる前、孤独で苦しんでいたマタイは、この真理を以下のように記す。

マタイ 11:28-30²⁸ すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。²⁹ わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしの軛を負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。³⁰ わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。 (口語)

- ・ 神は、天から声援を送って応援しているだけでなく、実際に弟子たち、そして、私たちたちとともに、スクラムを組んで、人生の旅路を歩んでくださる。大工であったかイエスは、私たちにピッタリ合った軛を作られる。また、軛は、常に二頭で負うもので、強い牛と弱い牛がペアで牛車を引く。その引き方は、強い、イエスから学ぶ。
→ *Walk with me and work with me—watch how I do it. Learn the unforced rhythms of grace.* (MSG)

3. 使命に生きる者へと変える：神の任務を委ねられたことを自覚するようになる

- ・ 「遣わします」(アペステイラ) (18) とあるが、ここから「使徒」、遣わされた者「アポストロ」という言葉が生まれるが、イエスは、弟子たちに自らの任務を継承させた。
- ・ 使徒としての自覚のない時から、すでに選び、送り出そうとされていた。しかし、彼らの現状といえば、弟子たちの間では出世競争、外部の者に対しては派閥抗争(イエスの名を勝手に使う者)や徹底攻勢(サマリヤ人)も辞さないところだった。そんなヨハネとヤコブをイエスは「雷の子」と呼んだ。
- ・ そんな弟子たち、そして、ヨハネは、どうなっていったらうか？神の代理人として、その使命を達成していったのだった。イエスが「世の人は彼らを憎んだのです」(14)と言われたように、世の人々は、弟子たちを迫害した。そんな彼らを弟子たちは、イエスの愛を持って愛し仕えていく者へと変えられていった。その姿が、世界を変えていく原動力となった。しかし、どうやってあの弟子たちがそこまで変えられたのだろうか？

ヨハネ 17:17-19¹⁷ あなたの真理のこぼれによって、彼らを純粋な、きよい者としてください。¹⁸ あなたがわたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わします。¹⁹ また、彼らが真理を知る、きよい者として成長できるように、この身をささげます。

- ・ この神の愛に満たされ感動して生きているかが、私たちにとって一番重要なことなのだ。変えられたヨハネが晩年残したヨハネの手紙に、そのことを知る手がかりがある。現代訳で見ておこう。

ヨハネの手紙第一 4:7-12⁷ 愛する皆さん。私たちは互いに愛し合おうではないか。愛は神から来る。愛のある人は皆、神によって生まれ変わった者であって、ますます神を知るようになる。⁸ 愛のない人には、神が分からない。神は愛だからである。⁹ 神は、その独り子イエス・キリストを、人間の姿をとってこの世に来させ、私たちの身代わりとして死なせることによって、私たちを救ってくださった。そのことによって、私たちに対する神の愛がはっきりと示された。¹⁰ 私たちが神を愛する前に、神が私たちを愛し、私たちの罪の身代わりとして死なせるために、御子イエス・キリストを、人間の姿をとってこの世に送ってくださったのである。ここに本当の愛がある、¹¹ 愛する皆さん、神がこのように私たちを愛してくださったのだから、愛されている私たちもまた、互いに愛し合うべきである。¹² 今までに肉眼で神を見た者はいない。しかし、私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちに宿ってくださり、神の愛が私たちのうちに完成されるのである。

まとめ

- ・ あなたの将来を期待している神の導きについて考えたことがあるか？これまでどんな導きがあっただろうか？
- ・ あなたの傍で導いておられる神の姿や愛を経験したことがあるか？
- ・ あなたは、この地上生涯でどんなことを神から任されているだろうか？